氏　名	三　木　葉　子
学位の種類	修　士（看護学）
学位記番号	修　士　第 104 号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	救急救命士の超急性期脳卒中専門医療についての知識に関連する要因の検討

論　文　内　容　要　旨

※整理番号	108	(ふりがな) 氏　　名	みき　ようこ 三木　葉子
修士論文題目	救急救命士の超急性期脳卒中専門医療についての知識に関連する要因の検討		

(研究の目的)

救急救命士が脳卒中専門医療機関に搬送するために必要な知識、すなわち組織プラスミノーゲンアクティベータを用いた血栓溶解療法（以下 t-PA）の実施可能基準に関する 3 項目と脳卒中発作時の症状の理解に関連する要因を検討する。

(研究方法)

研究 1;滋賀県下救急救命士を対象とした脳卒中救急搬送に関する調査

対象:滋賀県下実働救急救命士 206 名を調査対象とし断面調査にて実施した。

分析方法:t-PA の認識の有無と経験年数及び学習機会の関連を多重ロジスティック回帰分析により検討した。

倫理的配慮：滋賀医科大学倫理委員会の承認を得て実施された（承認番号 18-75）

研究 2;大阪府と秋田県下救急救命士を対象とした脳卒中救急搬送に関する調査

対象:大阪府下実働救急救命士 1154 名、秋田県下実働救急救命士 225 名を調査対象とし断面調査にて実施した。

分析方法:経験年数や学習機会の有無と t-PA 実施可能基準のうち救命救急士の関与の大きい発症時間、t-PA の実施可能時間、t-PA の実施可能施設に関する 3 項目の完答及び脳卒中発作時の症状完答との関連について、多重ロジスティック回帰分析により検討した。

倫理的配慮:滋賀医科大学倫理委員会の承認を得て実施された（承認番号 17-97)。

(結果)

研究 1 の結果:206 名の調査対象者中 150 名より回答が得られた（回答率 72.8%)。t-PA については 6 割以上の者が知っていると回答した。脳卒中勉強会への参加は t-PA の認識の保有と有意に関連していた（オッズ比:8.28,95%信頼区間:1.68-40.73）。

研究 2 の結果: 1379 名の調査対象者中 687 名より回答が得られた（回答率 49.8%)。脳卒中勉強会への参加は t-PA の知識完答と有意に関連していた（オッズ比:2.23,95%信頼区間;1.41-3.53)。また、学会への所属は知識完答と有意に関連していた（オッズ比:2.50,95%信頼区間;1.08-5.76)。経験年数、脳卒中勉強会への参加、学会への所属は脳卒中発作時の症状完答と関連しなかった。

(考察)

脳卒中専門医療機関搬送のために必要な知識のひとつである t-PA の実施可能基準に関する 3 項目完答に関連する要因は、脳卒中勉強会への参加、学会所属であった。こうした学習機会を得ることで、救急救命士は脳卒中の最近の治療についての新しい知識を得ていることが考えられた。一方、脳卒中勉強会参加と学会所属は脳卒中発作時の症状完答になったことからも関連する要因であるとは示されなかった。これは勉強会や学会での内容が、最近の話題に集中しているためだと考えられた。研究 2 の結果から、Prehospital Stroke Life Support(PSLS)コースガイドブックを使用した脳卒中勉強会は約 1 割と少ないことが明らかとなったことからも、今後は脳卒中勉強会の内容の検討も必要と考えられた。資格取得後のこうした学習機会に関しては、約 7 割の者が医師や看護師などの医療従事者による勉強会を希望しており、脳卒中専門医師や看護師の積極的な関わりへの期待が示された。

(総括)

滋賀県、大阪府、秋田県の実働救急救命士を対象とした脳卒中救急搬送に関する調査の結果、救急救命士が脳卒中専門医療機関搬送するために必要な知識のひとつである t-PA 実施可能基準に関する知識完答に関連する要因は勉強会などの学習機会をもつことであることが示唆された。